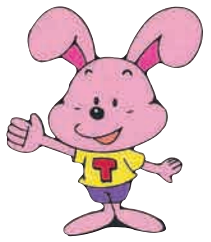
殿ダム建設事業広報誌
第55号
2011・7・1

因幡のくにの夢づくり

「とのまる通信」


とのまるくん
(殿ダムイメージキャラクター)

発行:国土交通省中国地方整備局 殿ダム工事事務所 鳥取県鳥取市国府町宮下1221 TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612 http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html

試験湛水(しけんたんすい)により ダムの安全性を確認できました

ダムの管理運用に向けて平成23年3月から4月にかけて試験湛水を行い、ダムの安全性を確認することができました。

また、3月25日にはダム周辺地域の利活用を検討する「殿ダム水源地域ビジョン策定委員会」が開催され、「殿ダム水源地域ビジョン」がとりまとめられました。

今回は試験湛水の状況や水源地域ビジョンの内容についてお伝えします。

ダム本体左岸側から神護大橋を望んだ風景(撮影:H23年4月)

原石山からダム堤体を望んだ風景
(撮影:H23年4月)

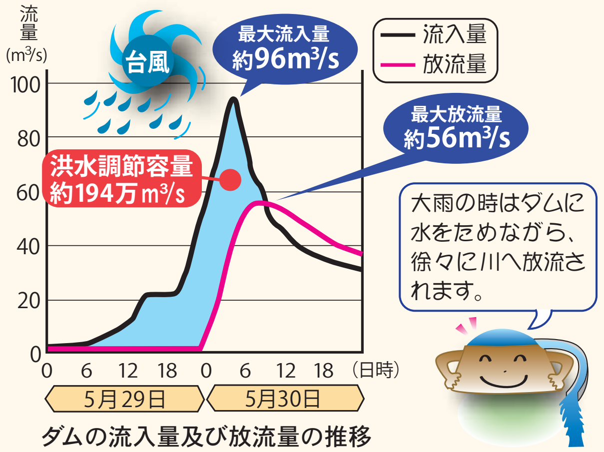
神護大橋からダム湖を望んだ風景
(撮影:H23年4月)

ダム本体を下流側から望んだ風景
(撮影:H23年4月)

台風2号による大雨において洪水調節でダム効果を発揮!

平成23年5月29日から中国地方に接近した台風2号の影響により、28日から30日にかけて累計約221ミリの降雨を記録しました。30日3時頃には殿ダムへの流入量が最大で毎秒約96m³/sとなりましたが、放流量は最大で毎秒約56m³/sに抑えることができました。

この大雨による殿ダムの洪水調整効果は、宮ノ下地点(ダム下流約10km付近)において約21cm(速報値)の水位低下ができたものと推定されます。



ダムの流入量及び放流量の推移

殿ダムに係わりの深い方へのインタビュー

「殿ダム建設対策同盟会」委員長を務められた米山幹雄氏に話を伺いました。

国府町の自然の豊かさを活かし、殿ダムを中心に、この地が発展することを期待しています。

米山幹雄さん

昭和56年、殿ダム建設関係の会合の折、一向に話が進まないことに業を煮やし、若輩者でしたが、ダム常任委員会に立候補しました。それ以来、移転者や残存者、行政との話し合いをとりまとめ、様々な交渉事などを行い、本当に忙しい日々を過ごしてきました。

殿ダム建設が決定してから、拾石集落では反対していた人も、考え方が違う若い者とも自由参加で1ヶ月に1回飲み会を開いて語りあったり、そばを打って食べたり、昔の伝統行事だった『百萬遍』を復活したりして、集落みんなでたくさんの思い出を作ってきました。

彼岸の中日に行う百萬遍

拾石集落から移転して早いものでもう11年が経ちます。移転してからもちょくちょく現場を見に上がりましたが、県道の付け替え工事が見え始めた頃からが早かった。堤体の盛り立ても約18ヶ月でできて、驚きましが、堤体完成後、水をため始めて約1ヶ月で最高水位になったことも驚きました。

国府町は、雨滝が有名ですが、小さな滝もたくさんあったり、普含寺は化石で有名です。また、殿ダムはダムにためた水を利用して水力発電をすることから、今後は殿ダムを中心に、ジオパークの動きとも連携して、国府町の自然の豊かさを最大限に活かした観光や、環境学習、自然体験などができる場として利活用され、この地が発展していくことを期待しています。

殿ダム NEWS

東北地方太平洋沖地震の緊急災害対策として殿ダム工事事務所職員を派遣。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震を受けて、中国地方整備局では緊急災害対策として、職員を派遣し支援活動を行っています。

殿ダム工事事務所からは、岩手県大槌町に情報通信班として1名、宮城県石巻市の北上川下流事務所に被災状況調査班として2名を派遣しました。

被災状況の調査結果を整理する様子

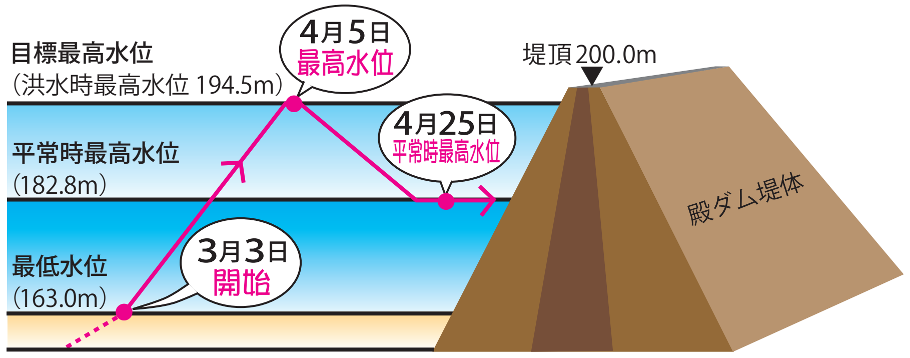
お問い合わせ&お便りのあて先
国土交通省 中国地方整備局 殿ダム工事事務所 とのまる通信編集部
〒680-0151 鳥取県鳥取市国府町宮下1221
TEL)0857-29-9570 FAX)0857-29-9612
http://www.cgr.mlit.go.jp/tono/index.html

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOYINK 大豆インクを使用しています

殿ダムの試験湛水を完了しました
ー試験湛水によりダムの安全性を確認ー

3月3日(木)から試験湛水を開始し、徐々に貯水位を上昇させ、4月5日(火)に目標最高水位である洪水時最高水位に到達しました。

その後、満水の状態を1日間保持させたのち、徐々に貯水位を低下させ、4月25日(月)に平常時最高水位となり、無事に試験湛水を完了しました。



詳しくはホームページをご覧ください

その間、ダム堤体の浸透量[※1]や変位[※2]などの計測、貯水池周辺の巡視、ダムを管理する機器の動作状況の点検などを行いました。

その結果、堤体の急な変動や土砂崩れなど特に異常な状態は確認されず、また、機器の正常な作動状況を確認し、操作の信頼性を確認することができました。

※1 浸透量：貯水池や周りの地盤からダム堤体や基礎にしみてくる水の量
※2 変　位：元の位置から変化した量

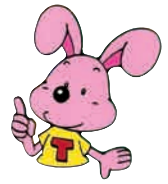
ダム堤体底の管理用トンネルで浸透量を観測する様子

ダム堤体及び貯水池周辺の状態を確認する様子

上空から殿ダムを望む

殿ダム周辺地域の利活用をまとめた『殿ダム水源地域ビジョン』

殿ダム湖周辺の利活用の指針となる『殿ダム水源地域ビジョン』は、3回の策定委員会と、4回のワークショップを通じて、地域住民の思いや意向を把握し、ビジョンの目標や基本方針、行動計画等の検討を行い、とりまとめたものです。(平成21年10月～平成23年3月)



ビジョンの目標

万葉の歴史と自然の恵みに誘われる 因幡のふるさと文化圏づくり

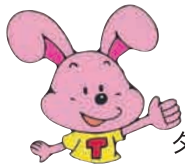
ビジョンの基本方針

- **きらめき：自然の恵みを享受する**
  殿ダム湖とその周辺の自然環境の保全と活用
- **いとなみ：じけの暮らしを楽しむ**
  大茅・成器の宝を磨いて地域生活の魅力を提供
- **いざない：郷土の語らいを広げる**
  殿ダムの観光や特産品の魅力の紹介と発信
- **つながり：殿ダムの上下流の交流を深める**
  鳥取市全体による殿ダム活用の基盤づくり

ビジョンの行動計画

殿ダム水源地域ビジョンを具体的に進める行動計画として、ビジョンの基本方針に基づき、3つの視点を掲げ、具体的な施策を設定しています。

先行して実施する施策



殿ダム水源地域ビジョンにおいて、行動計画に掲げた施策から、ダム湖周辺の拠点広場整備等により比較的早期に対応可能な施策や、イベント等の実施により計画の早期定着が期待される施策等を設定しています。

サクラの名所づくり

多種のサクラが楽しめる名所づくりを目指します。

また、四季の花木を通じて自然と親しめる"憩い、やすらぎの空間"としての充実を図ります。

水生生物とのふれあいの場としての活用

自然観察会等で利用できる観察スペースの充実を図り、様々な環境学習プログラムを作成していきます。

多目的広場としての活用

ダム湖周辺の自然景観を活かした眺望スペースの充実を図ると共に、多目的なレクリエーション広場の確保を目指します。

ウォーキングトレイル等の運動コースの設定、拠点整備

毎年実施している"殿ダムウォーキング大会"の定例化を図ると共に、自然環境、景観の魅力を満喫できるよう充実を図ります。

情報発信の地域体制づくりの検討

各種イベントで"殿ダムパネル展"等を開催し、殿ダムや周辺地域に関わる情報発信の試行を行います。

今後の期待

これらの施策メニューについて、ダムの周辺整備の進捗状況に合わせて、各種団体や組織、行政などが連携を図りながら、無理なく着実に取り組むことで、ダム周辺の活性化に寄与するとともに、鳥取市民をはじめ多くの人々の憩いとやすらぎの場としての利活用が期待されます。